

岳陽樓記

范仲淹

慶曆四年（一〇四五年）春

居廟堂之高・則憂其民

廟堂の高きに居りては則ちその民を憂え

處江湖之遠則憂其君

江湖の遠きに処<sup>お</sup>りては則ちその君を憂う

是進亦憂 退亦憂也

これ進むも亦た憂い 退くも亦憂うる也

然則何時而樂邪

然らば則ち何れの時にか楽しまんや

其必曰 先天下之憂而

それ必らず天下の憂いに先立ちて憂え

後天下之樂而樂歟

天下の楽しみに後れて楽しむと曰わんか

（先憂後樂、後樂園の由来）